あなたも、新しい自分と出会ってみませんか？

「ナガサキ・ユース代表団」3 期生募集

ニューヨーク滞在期間 2015年4月26日～5月1日

（応募締切 2014年11月6日。詳しくはRECNAホームページで）

被爆 70 年の節目の年である 2015 年、5 年に一度の NPT 再検討会議がニューヨーク国連本部で開かれます。各国政府関係者に加え、「核兵器のない世界」を求める NGO・市民団体が世界中から集まるこの場で、核軍縮・不拡散問題の最前線の議論を学ぶとともに、ネットワークを広げ、「夢」を「現実」に変える力を培ってみませんか。長崎の若者として、自分にしかできない何かをやりたい…と考えている〈あなた〉の挑戦を待っています。

2 期生より、未来の 3 期生へのメッセージ

「今の自分を変えたい。今の世界を変えたい。でも何をすればいいかわからない。そんな思いを抱えていた時、チラシが目に止まりました。一歩を踏み出すのは勇気が要ります。でも、踏み出せば必ず、新たな世界が開けます。」（ちさ）

「『究極の医療は戦争をなくすこと』。医療系学部の私がユース代表団の一員として活動する理由は、ある医師の先生がおっしゃったこの言葉に集約されています。被爆 70 年に向けて長崎に住む若者ができること、一緒に考えてみませんか。」（ともえ）

「志望動機は人それぞれだけれども、やってみたい、やりたいと思う気持ちが大事。2015 年というとても重要な年に何かすごいことやってみませんか。」（まりこ）

「『10 番を着けるチャンスが目の前にあって、違う番号を選びますか？っていう話です。僕はそのチャンスが目の前にあって、喜んで自分から要求しますし、プレッシャーのことは何も考えなかったです。』本田圭佑選手が AC ミラン移籍会見で語ったことです。
――国連に行けるチャンスが目の前にあって、違う手段を選びますか？」（ゆうこ）

「私は、NY の滞在期間はもちろんですが、国内での活動で学ぶことがとにかく多かったです。自らの視野が大幅に広がったことを日々実感しています。世界と自分との距離、夢と自分との距離がぐぐぐっと近くなりました！」（みなみ）

「ユースに参加するのなら保証します。世界の動きを肌で感じることができます。世界中の魅力的な素敵な人たちと会うことができます。そして、成長した自分を実感できます。こんなチャンスはそうありません。大学生だからできること、今しかないんです。その目で世界をみてください。」（はるか）

「外国に興味がある！というかた、ぜひ応募してみてください。これまでと違う "世界" が見えてきますよ。大変なことも多いけど、得られるものも大きいと思います。」（ゆの）

「私は NY で、日本人学校での平和授業の企画・実践などを行い、普段の生活ではなかなか味わえない、実践的な学びができました。多くの方があなたの『やってみたい！』を応援してくれます。」（さくら）

核兵器廃絶
長崎連絡協議会
PCU-Nagasaki Council

RECNA
長崎大学核兵器廃絶研究センター

編集発行責任：
核兵器廃絶長崎連絡協議会（PCU-NC）

※PCU-NC は、長崎県、長崎市、長崎大学の 3 者による核兵器廃絶のための協議会。

お問い合わせ先：
核兵器廃絶長崎連絡協議会・事務局（PCU-NC）
〒852-8521 長崎市文教町 1－14
（長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）内）
TEL：095-819-2252 / FAX：095-819-2165
http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/pcu/

ナガサキ・ユース代表団の Facebook
https://www.facebook.com/nagasakiyouth

Time to Change the World!

Vol. 02 2014

～世界を変えるのは、私たち～

ナガサキ・ユース代表団 2014 活動レポート

Who we are

ナガサキ・ユース代表団に関する7つの質問

Q1. ナガサキ・ユース代表団って何？

A1. 長崎県、長崎市、長崎大学の３者が構成する「核兵器廃絶長崎連絡協議会」（PCU-NC）が主催する人材育成プロジェクトです。2013 年に第 1 期生の活動が始まりました。核軍縮・不拡散問題に関する国際会議への参加とその事前事後の活動を通じて、次世代を担う長崎の若者が、この分野で活躍する世界の人々と出会い、最新の国際情勢を学ぶとともに、知識を行動に結びつける力を養うことをめざしています。

2014 年度は、公募で選ばれた８名の長崎の大学生がニューヨークの国連本部で開催された「2015 年核不拡散条約（NPT）再検討会議第３回準備委員会」（右ページ囲み参照）に参加しました。

Q2. 誰が応募できるの？

A2. 募集対象は、長崎県内に在住・在学・在勤の大学生・院生、および同程度の年齢の若者です（18 ～25 歳を目安）。高校生（応募時）は不可。国籍は問いません。核兵器問題に関心があり、事前の学習や現地での活動を通して、この分野での知識・経験を得たいと希望する若者、帰国後もなんらかの形で「核兵器のない世界」の実現のための活動にかかわっていくことを希望する若者を求めます。大学での学部や専攻等は問いませんが、日本語・英語での一定のコミュニケーション能力は必須です。また、国際会議の日程にあわせて海外渡航することが可能であることに加え、メンバー決定から出発までの間、事前の勉強会・ミーティングなどに原則参加可能であることが求められます。

2014 年度募集チラシ

Q3. 費用は誰が負担するの？

A3. 国際会議への参加にかかる旅費・滞在費として、一人あたり一律 20 万円を支給します。航空券・宿泊先は各自で手配します。不足分が出た場合は個人負担となります。

Q4. 誰がメンバーを選ぶの？

A4. 選考は２段階で行われます。1次審査は書類選考、２次審査は英語面接です。２次審査の選考委員は以下の通り（2013 年度。肩書きは当時）。調 漸（核兵器廃絶長崎連絡協議会会長、長崎大学理事・副学長）、片峰 茂（長崎大学学長）、ブライアン・バークガフニ（長崎総合科学大学教授）、稲田俊明（長崎大学言語教育研究センター長）、梅林宏道（長崎大学核兵器廃絶研究センター長）。

Q5. 核問題を専門的に勉強していなくても大丈夫？

A5. 国際会議で何が議論されているかが理解でき、また、各国からの会議参加者との意見交換が十分に行えるよう、事前の学習を通じて、核問題の基礎から最新情勢までを幅広く学んでいきます。国内外の専門家を招いた講義やワークショップも開かれます。また、長崎の被爆の実相やその背景についても学習します。

「2015 年 NPT 再検討会議第３回準備委員会」って何？

1970 年に発効した「核不拡散条約（NPT）」は、その名前の通り、核兵器保有国が増えることを防ぐために作られた条約です。加盟国は 190 か国（2003 年に脱退表明した北朝鮮を含む）で、インド、パキスタン、イスラエルの 3 か国は加盟を拒否しています。

NPT では米、ロ、英、仏、中の５か国を「核兵器国」、それ以外を「非核兵器国」と定め、前者には核軍縮に向けた交渉を誠実に行うことを求め、後者には核兵器の開発や取得を禁じています。また、条約加盟国には「原子力の平和利用」（原子力発電など）の権利が認められています。

条約で定められた義務がきちんと守られているか否かを検討するため、５年ごとに「再検討会議」が開かれます。次回は 2015 年です。再検討会議に向けては３回の準備委員会が行われます。ナガサキ・ユース代表団２期生が参加した今回の会議は、「2015 年の再検討会議に向けた３回目の準備委員会」です。加盟国が一堂に会し、約２週間にわたって意見を交わします。

Q6. 現地の活動内容は？

A6. 大原則は「自分たちのプログラムは自分たちで創る」です。国際会議の場には、各国政府代表だけではなく世界各地から NGO や専門家、大学生などの若者も多数参加し、さまざまな会議やワークショップ等が同時並行で行われます。それらに参加したり、また、自分でイベントを企画することも可能です。各国の外交官との意見交換や、現地の大学や高校を訪問することもできます。参加者一人一人の興味や関心、目標に沿って、オリジナルの現地活動プランを立てていきます。SNS を通じてリアルタイムの情報発信も行います。

Q7. 帰国後の予定は？

A7. 長崎で報告会を行います。その後の活動は「ナガサキ・ユース代表団」メンバーとしての義務ではありませんが、一連の活動を通じて得た知識や経験、国内外の人々とのネットワークを活かして、何らかの形で核問題にかかわっていくことが奨励されます。長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）には、核問題に関心を持つ人々が集う「RECNA サポーター」という自主的な枠組みがあり、核問題での勉強会やイベントを日常的に行っています。大学生・高校生も多く参加しています。ここで活動していくことも一つの方法です。

「ナガサキ・ユース代表団」の挑戦

第二期生メンバーによる活動のごく一部を紹介します

2014 Members

ナガサキ・ユース代表団・第2期生
（肩書き、学年は2014年5月時点のもの）

（写真左から）山中智絵（長崎大学薬学部２年）、橋口優乃（長崎大学経済学部３年）、新崎さくら（長崎大学教育学部２年）、宮田美波（長崎大学医学部保健学科３年）、堀真理子（長崎大学経済学部４年）、前川陽香（長崎大学経済学部４年）、田平由布子（長崎大学経済学部４年）、西田千紗（長崎大学医学部医学科２年）

1 出発前

ワークショップ「核兵器のない世界を想像してみよう」

在ニューヨークの軍縮教育家キャサリン・サリバンさんや広島平和文化センター前理事長のスティーブン・リーパーさんを講師に、ディスカッション、フィールドワークなど多彩なプログラムを盛り込んだ3日間の参加型ワークショップを受講。

連続講座「ナガサキを学ぶ」（全5回）

平和学習の「出前講座」を行っている「ピースバトン・ナガサキ」のスタッフによる連続講座を受講。長崎原爆の実相やその背景を「座学」で学び、「さるく」（長崎弁で「まちをぶらぶら歩く」の意）で被爆遺構をめぐりました。

連続勉強会「英語で読み解く核問題」（全7回）

実際に国際会議で使われた各国政府の演説や国際NGOの英文レポートを題材に、核問題の基本概念や専門用語を学び、最新情勢について議論しました。

このほかにも、長崎を訪問したペルーのエンリケ・ロマン＝モレイ大使（NPT再検討会議第3回準備委員会議長）との意見交換会や、日本の外交官、国際NGOスタッフなどを講師に迎えた勉強会を行いました。

2 ニューヨークでの活動

日々の新しい発見や出会い、率直な思いを８人がそれぞれブログで毎日発信しました。
「ナガサキ・ユース代表団 公式 Facebook ページ
https://www.facebook.com/nagasakiyouth

政府間会議の傍聴

連日開かれる本会議場での政府間会議はすべて傍聴可。淡々とした演説の中にも各国それぞれの思惑が飛び交い、新しい展開やさまざまなドラマが見え隠れしています。

本会議中の「NGO 意見表明セッション」では、市民社会の代表が各国政府を前に意見を述べます。長崎市長や被爆者、若者代表も発言します。ユースメンバーは欧米の若者NGO と協力し、若者演説の文案作りに参加しました。

▲本会議場の様子

公式ステートメントを読んで興味をもったコスタリカ。その後に政府関係者に直接お会いし、聞いてみたかった「非核兵器地帯条約加入のメリット」などを尋ねることができました。

ネットワーキング

準備委員会の場には、100か国以上の政府や国際機関の関係者だけでなく、核問題に関心を持つ世界各地の人々が集結します。この機会を最大限に活かそうと、ユースメンバーは、潘基文事務総長をはじめとする国連関係者、外交官、NGO関係者らと、連日多くの意見交換の場を持ちました。「平和首長会議」などNGO主催の国連内会議や政府主催レセプションでプレゼンやスピーチの機会もありました。在NYのNGOや被爆者と一緒に現地の高校も訪問しました。加えて大きな成果は、世界各国から参加した若者たちとの交流を深めたことです。今後に繋がるたくさんの出会いがありました。

また、そうしたさまざまな出会いを他の人々との共有できるよう、ユースメンバーは「2015年までに実現したい目標」を会議参加者にインタビューし、メッセージビデオを作成しました。

▲政府関係者と対話する世界の若者たち

▲ロマン・モレイ議長（右）

日本人学校での平和授業

ユースメンバーは、医学、経済、教育など、一人一人の専門分野における知識や経験を活かした活動を行いました。

教育学部のメンバーを中心に行ったのが、ニュージャージー州にある日本人学校「ニューヨーク育英学園」における平和教育の実践です。対象は小学5、6年生の18名。85分の授業では、「平和とは何か」「平和な世界を導くために何ができるか」をテーマに、どうすれば自分が思い描く平和を実現することができるのか、子どもたち一人一人が考える機会となるよう工夫を重ねました。

▲日本人学校での授業風景

「平和とは何か」の問いに対し、子どもたちからは「共存」という言葉が出ました。人種もさまざまなアメリカならではの答えでしょうか。子どもたちの豊かな発想に驚かされることばかりでした。

ドイツ大学生との意見交換会

ユースメンバーは、ドイツのダルムシュタット工科大学及びハンブルグ大学から参加した約30名の大学生と意見交換のセッションを行いました。両大学は毎年、「核兵器禁止条約に関する交渉シミュレーション」プログラムのもと、大学生をNPT会議に派遣しています。ユースメンバーと独大学メンバーは事前に連絡を取り合い、MLを通じてテーマ（「核の傘」「原発」）を決定し、それぞれが自国の政策についてのプレゼンテーションを準備しました。共通項も多い日本とドイツ。当日は少人数のグループにわかれての白熱した議論となりました。

ディスカッションの最後に参加者全体で出た意見を共有した際、「私達は平和という同じゴールを目指している」とドイツの学生が述べていたのがとても印象的でした。

▲ドイツ大学生とのディスカッションの様子

3 帰国後

米大学生との意見交換会

5月15日、スタディツアーの一環で長崎を訪問していた米インディアナポリス大学の「広島・長崎講座」受講生の一行と、長崎原爆資料館で意見交換会を行いました。日米の若者における核兵器に対する認識や平和教育の違いなどをテーマに議論を交わしました。

活動報告会
Time to Change the World!
～「ナガサキ・ユース代表団」ニューヨークでの挑戦～

5月20日には、活動のまとめとなる報告会を長崎大学文教キャンパス内で開催しました。

準備にあたっては、活動を通じて学び、考えたことを、どうすれば他の若者にうまく伝えることができるのか、メンバーで議論を重ねました。核問題が遠い、誰かの問題ではなく、自分たちがかかわるべき問題であることを伝えたい――。議論の末、報告会を2部構成とし、後半にメンバーと参加者が対話する「茶話会」形式を取り入れました。

そして、未来へ

ナガサキ・ユース代表団2期生としての公式活動が終了した後も、活動を通して得た知識・経験・人脈を活かし、ユースメンバーは各方面で活躍しています。小中学生などさらに若い世代に「若者の取り組みの重要性」を伝える機会も増えています。

NPT再検討会議の年であり、広島・長崎の被爆70年の節目となる2015年を視野に入れた新しい動きも始まりました。ユースメンバー有志を含めた若者は、2015年夏の長崎で、国内外の若者とともに核問題を議論する会議を開こうと企画を進めています。そのプレイベントとして、69回目の長崎原爆忌の翌8月10日には、大学生が各国の外交官になりきり、核軍縮をテーマに交渉シミュレーションを行う「模擬国連」を行いました。「Peace Bridge to 2015 ～核兵器の今に迫る～」と題したこのイベントには、ドイツのダルムシュタット工科大学の学生など、ユースメンバーがニューヨークで出会った各地の若者が参加し、2015年に向けた新たな連携を誓い合いました。

今年の長崎平和宣言には次のような一文が盛り込まれました。

> 「長崎では、若い世代が、核兵器について自分たちで考え、議論し、新しい活動を始めています。大学生たちは海外にネットワークを広げ始めました。高校生たちが国連に届けた核兵器廃絶を求める署名の数は、すでに100万人を超えました。」

まだまだ多くの大学生にとって「核兵器」というテーマは「遠い、難しい、自分と関係ない」問題と感じられるかもしれません。そんな中でも、「ナガサキ・ユース代表団」の存在をきっかけに、この問題に関心を持つ長崎の若者の数は少しずつ、でも着実に増えています。